

編集後記

世界的にある種の保守化が進行している。アメリカ合衆国、ついにBrexitを敢行したイギリス、ネオナチに悩むドイツ。アメリカの現大統領は“Silent Majority”という言葉で一部の国民の心を掴んだ。その要因が人種であれ、性差であれ、階級であれ、経済格差であれ、語ることが許されない人々がいるとすれば、かつてスピヴァックがしたように、その語りの可能性について考察する努力が必要だろう。

しかし、いうまでもなく、語りうる・語りえないという二分法を反復することと問題が解決するわけでもない。主体、アイデンティティなど従来の概念を問い直すと同時に、主体やその欲望、感性のあり方を枠組みごとあらためて再考しなければならぬはずだ。伝統的芸術観に根ざすことで、文学・文化研究の営みが完結しようと信じていることへの誘惑に抗い続けること、保守化した世相に幻惑されるのではなく、より広い場へと自らを解き放とうとするとは、目指されるべき多様性への近道となるだろう。

本号の特集タイトルにあえて「感じられないもの」を加え、「感性」の神話の再検討を示唆したのはそのためでもある。モーリス・メルロー・ポンティの『見えるものと見えないもの』、ポール・ド・マンの『盲目と洞察』など、類似のテーマに関わる優れた先例は枚挙に遑がない。その意味で本号のテーマは極めて伝統的でもある。

実際の編集作業に携わってくださった総合文化研究所編集スタッフの皆さんには、この場をお借りして心からの感謝の意をお伝えしたいと思います。機転を利かせて秩序なき混沌を捌いてくださった皆さんのご努力がなければ、本号が完成することはありえませんでした。また、時に仕事の段取りを忘れることもあった編集担当者に、絶妙なタイミングでリマインダーをくださった所長の沼野恭子先生、年度後半の超過密なスケジュールの合間を縫って原稿をお寄せくださった学内外の諸先生がたに深くご感謝申し上げます。

皆さんのご努力に支えられて現実的な形になった新しく古い問いかけが、学内外の知の探求者たちにとって実りある成果となりうることを祈りつつ。

(加藤雄二)

投稿規定

1. 『総合文化研究』は東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・発行される。なお本誌掲載の論文等に関しては、著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
2. 『総合文化研究』は原則として各年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した未発表の論稿に限る。
4. 編集委員会は必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「報告」「書評」とする。
「特集論文」：特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文。
「自由論文」：執筆者自身による未発表の研究論文。
「報告」：同研究所で開催した講演会・シンポジウムの内容についての報告。
「書評」：書評・新刊紹介等。
6. 使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
7. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
8. 注は、後注とすること。
9. 参考文献等は、注の後に付すこと。
10. 投稿原稿は、返却しない。
11. 同誌発刊後に、本文等を訂正する必要がある場合は、著者からの申し出に基づき、正誤表で対応することを原則とする。
12. 編集上の細則については、編集委員会が適宜これを定める。

Trans-Cultural Studies, Vol. 23
総合文化研究 第23号

2020年2月14日発行

責任編集 加藤雄二

編集スタッフ 安島里奈 井伊裕子
石井沙和 木村千恵
安永有希

発行 東京外国語大学 総合文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電話 042-330-5409

Fax 042-330-5410

Web <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>

e-mail tufs422ics@tufs.ac.jp